

# 一般財団法人 札幌市教育協会 定 款

## 第 1 章 総 則

### (名 称)

第 1 条 この法人は、一般財団法人札幌市教育協会と称する。

### (事務所)

第 2 条 この法人は、主たる事務所を北海道札幌市に置く。

## 第 2 章 目的及び事業

### (目 的)

第 3 条 この法人は、札幌市における学校、社会、家庭にわたる教育の振興を図るため、教育に対する市民の関心を深めるとともに、教育活動に対する奨励助成等を行い、もって文化社会の建設と人材開発に寄与することを目的とする。

### (事 業)

第 4 条 この法人は、前条の目的を達成するため、札幌市の区域内において次の事業を行う。

- (1) 教育に関する建設的な世論の啓発のための教育フォーラム等の開催
- (2) 調査研究等教育振興活動を進める団体等への奨励及び助成
- (3) 児童・生徒の健全育成事業を進める団体等への奨励及び助成
- (4) 教育関係団体との協力及び連携による児童・生徒の自然の中での集団宿泊活動等の奨励及び助成
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

## 第 3 章 資産及び会計

### (基本財産)

第 5 条 この法人の目的である事業を行うために不可欠な別表の財産は、この法人の基本財産とする。

- 2 基本財産は、この法人の目的を達成するために善良な管理者の注意をもって管理しなければならないが、基本財産の一部を処分しようとするとき及び基本財産から除外しようとするときは、あらかじめ理事会及び評議員会の承認を要する。

### (事業年度)

第 6 条 この法人の事業年度は、毎年 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終わる。

### (事業計画及び収支予算)

第 7 条 この法人の事業計画書及び収支予算書は、毎事業年度開始日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

- 2 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置くものとする。

### (事業報告及び決算)

第 8 条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告書の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 損益計算書（正味財産増減計算書）
- (5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書

- 2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号及び第4号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。
- 3 第1項の書類のほか、監査報告を主たる事務所に5年間備え置くとともに、定款を主たる事務所に備え置くものとする。

## 第4章 評 議 員

### (評議員の定数)

第9条 この法人に評議員5名以上12名以内を置く。

### (評議員の選任及び解任)

第10条 評議員の選任及び解任は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第179条から第195条までの規定に従い、評議員会において行う。

### (評議員の任期)

第11条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

- 2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとする。
- 3 評議員は、第9条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

### (評議員の報酬等)

第12条 評議員の報酬は、無報酬とする。

- 2 評議員には、その職務を行うために要する費用の支払をすることができる。この場合の支給の基準については、評議員会の決議により別に定める。

## 第5章 評 議 員 会

### (構 成)

第13条 評議員会は、すべての評議員をもって構成する。

### (権 限)

第14条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 理事及び監事の報酬等の額
- (3) 貸貸対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の承認
- (4) 定款の変更
- (5) 残余財産の処分
- (6) 基本財産の処分又は除外の承認
- (7) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

### (開 催)

第15条 評議員会は、定時評議員会及び臨時評議員会とする。定時評議員会は、毎事業年度終了後2箇月以内に開催し、臨時評議員会は、必要に応じて開催する。

### (招 集)

第16条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

- 2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

### (議 長)

第17条 評議員会の議長は、その都度、出席評議員の互選によって選出する。

### (決議)

第18条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行われなければならない。

- (1) 監事の解任
- (2) 定款の変更
- (3) 基本財産の処分又は除外の承認
- (4) その他法令で定められた事項

3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第20条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

### (議事録)

第19条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより議事録を作成する。

2 議長及び出席した評議員のうちから選出された署名人2名は、前項の議事録に記名押印する。

## 第6章 役員

### (役員の設定)

第20条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 5名以上12名以内
- (2) 監事 2名以内

2 理事のうち1名を理事長、2名を常務理事、1名を事務局長とする。

3 前項の理事長をもって、一般社団法人および一般財団法人に関する法律上の代表理事とし、常務理事をもって同法第91条第1項第2号の業務執行理事とする。

### (役員を選任)

第21条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

2 理事長及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

### (理事の職務及び権限)

第22条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人の職務を執行する。

2 理事長は、法令及びこの定款に定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、常務理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。

3 理事長及び常務理事は、毎事業年度に4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

### (監事の職務及び権限)

第23条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

### (役員任期)

第24条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

2 監事の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。

- 4 理事又は監事は、第20条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

#### (役員解任)

第25条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

- (1) 職務上の義務に違反し、または職務を怠ったとき。
- (2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

#### (役員報酬)

第26条 理事及び監事には、評議員会において別に定める総額の範囲内で、報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

## 第7章 理事会

#### (構成)

第27条 理事会は、すべての理事をもって構成する。

#### (権限)

第28条 理事会は、次の職務を行う。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長及び常務理事の選定及び解職。

#### (招集)

第29条 理事会は、理事長が招集する。

2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

3 理事会を招集する者は、理事会の日時、場所、目的、その他必要な事項を記載した書面をもって、理事会の日の1週間前までに、各理事及び監事に対してその通知を発しなければならない。

#### (議長)

第30条 理事会の議長は、理事長とする。

#### (決議)

第31条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第197条において準用する同法第96条の要件を満たしたときは、理事会の決議があつたものとみなす。

#### (議事録)

第32条 理事会の議事については、法令の定めるところにより、議事録を作成する。

2 出席した理事長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

## 第8章 賛助会員

#### (賛助会員)

第33条 この法人の目的及び事業を賛助しようとする者は、賛助会員になることができる。

2 賛助会員になろうとする者は、理事会が別に定める加入届を理事長に提出し、理事会の承認を得なければならない。

3 賛助会員は、毎年、評議員会において別に定める賛助会費を納入する。

4 賛助会員は、次の事由によってその資格を喪失する。

- (1) 退会したとき。
- (2) 死亡したとき。
- (3) 賛助会員費を理事会で別に定める年数を超えて納入しなかったとき。

- 5 賛助会員が退会しようとするときは、理由を付して退会届を理事長に提出する。

## 第9章 定款の変更及び解散

### (定款の変更)

第34条 この定款は、評議員会の決議によって変更することができる。

- 2 前項の規定は、この定款の第3条、第4条及び第10条についても適用する。

### (解散)

第35条 この法人は、基本財産の滅失によるこの法人の目的である事業の成功の不能その他法令で定められた事由によって解散する。

### (剰余金)

第36条 この法人は、剰余金の分配を行うことができない。

### (残余財産の帰属)

第37条 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、評議員会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条17号掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

## 第10章 公告の方法

### (公告の方法)

第38条 この法人の公告は、電子公告により行う。

- 2 事故その他やむを得ない事由によって前項の電子公告をすることができない場合は、官報に掲載する方法により行う。

## 第11章 事務局

### (設置等)

第39条 この法人の事務を処理するため、事務局を設置する。

- 2 事務局には、事務局長のほか所要の職員を置くことができる。
- 3 事務局長は、理事長が理事会の承認を得て任免する。
- 4 職員は、理事長が任免する。
- 5 事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

## 第12章 補 則

### (委 任)

第40条 この定款に定めるもののほか、この法人の運営に必要な事項は、理事会の議決を経て、理事長が別に定める。

## 附 則

- 1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第121条第1項において読み替えて準用する同法第106条第1項に定める一般法人の設立の登記の日から施行する。
- 2 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第121条第1項において読み替えて準用する同法第106条第1項に定める特例民法法人の解散の登記と一般法人の設立の登

記を行ったときは、第6条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。

- 3 この法人の最初の理事長は石和進治とする。  
4 この法人の最初の評議員は、次に掲げる者とする。

白 幡 恒 夫  
角 谷 毅  
藤 井 俊 徳  
今 倉 迪 夫  
小鍛冶 一 志  
北 本 義 和  
猪 股 徹  
西 村 喜 憲

別表 基本財産

財 産 種 別	金 額
定 期 預 金	1 3 9, 7 0 0, 0 0 0 円
貸 付 信 託	1, 0 0 0, 0 0 0 円

平成24年4月 1日 制定施行

平成28年4月 1日 一部改訂

令和 5年5月13日 一部変更 (適用は、令和5年4月1日から)

(※変更箇所 第4条、第14条、第20条、第26条)

令和 6年5月11日 一部改定

(※変更箇所 第9条、第20条)